

災害研職員を対象とした心肺蘇生及び AED 使用講習会を開催しました(2016/05/26)

テーマ：心肺蘇生、AED（自動体外式除細動器）
場所：東北大学クリニカル・スキルスラボ（宮城県仙台市）

2016年5月26日（木）、東北大学クリニカル・スキルスラボにおいて東北大学災害科学国際研究所の職員を対象とした心肺蘇生及び AED 使用講習会が、災害医学研究部門 災害医療国際協力学分野 佐々木宏之助教の企画で開催されました。東北大学総合地域医療研修センターの今井浩之先生（救急救命士）を講師に迎え、同センタースタッフと佐々木助教が講習のサポートを行いました。今井先生は、数年前まで現役の救急救命士として活動され、また今回の熊本地震に際しては佐々木助教とともに日本集団災害医学会メンバーとして益城町役場に派遣された救急・災害医療のエキスパートです。当研究所からは、6名の研究者（ブリッカー・ジェレミー・ディビッド准教授、ローバー・フォルカ助教、マス・エリック助教、保田真理助手：災害リスク研究部門、寅屋敷哲也助教：人間・社会対応研究部門、イ・ケリーン助教：地域・都市再生研究部門）が受講しました。

はじめにビデオ視聴で心肺蘇生の基本や AED の使用法を学んだのち、シミュレーターを用いて胸骨圧迫・AED 使用の実技訓練を行いました。「災害研究者として、災害時に起こり得る緊迫した状況にどのような対応ができるか」など活発な質疑応答がありました。今回は、ほとんどの受講者が数年前の受講経験を持っていましたが、心肺蘇生の変遷もあり、繰り返して講習を受けトレーニングすることが大事であることも再確認できました。

日本では現在、年間約6万人が心室細動で命を落とすといわれています。胸骨圧迫や AED の使用によって救命につながったケースも、多数報告されています。災害研職員同士のみならず災害研を訪問して下さるお客様のためにも、この講習会を継続的に開催したいと考えています。



シミュレーターを用いて交互に胸骨圧迫の練習をする。



2名で協力しながら胸骨圧迫とAEDパッド装着を行う。



クリニカル・スキルスラボスタッフと受講者全員による記念撮影